

岩手県森林審議会松くい虫対策部会議事録

- 1 開催日時 令和6年2月22日(木) 10:00～11:30
- 2 開催場所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁12階 特別会議室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 会議次第 別紙次第のとおり
- 5 議事録 下記のとおり

////////////////////////////////////
6 議事

(1) 松くい虫被害対策について

ア 報告

① 岩手県の松くい虫被害の現状と対策(資料1により説明)

《主な質疑等の要旨は次のとおり》

【山中松くい虫対策部会長】

昨年の夏は例年よりも気温が高く猛暑となりましたが、昨年の猛暑が松くい虫被害に及ぼす影響はありましたでしょうか。

【事務局】

令和5年9月末時点の松くい虫被害量について、前年同期と比較して増加傾向は見られなかったところですが、また、松くい虫被害の発生箇所も、前年と同じ地域で発生しており、昨年の猛暑が松くい虫被害拡大に及ぼす影響は見られなかったと考えています。

【山中松くい虫対策部会長】

樹種転換で植林している主な樹種は。

【事務局】

県が樹種転換で推奨している樹種は特になく、カラマツやスギなど、土地の状況等の地理的条件に合わせて森林所有者が選択することになっています。また、松林の伐採後に広葉樹の生育が見込める施工地は、天然更新も行っているところですが。

【山中松くい虫対策部会長】

県の木である南部アカマツは植林しているのでしょうか。

【事務局】

防潮林等、アカマツを植林する場合は、県が開発した松くい虫抵抗性アカマツの植林を進めているところです。

【伊藤委員】

昨年6月に二戸市で確認された松くい虫被害について、近隣の一戸町から被害が拡大したのでしょうか。

【事務局】

一戸町の被害地から二戸市で確認された松くい虫被害木までは約6キロメートル離れています。マツノマダラカミキリの移動距離は約3キロメートルとされており、二戸市の松くい虫被害の感染経路の特定は困難と考えております。

【手塚委員】

松くい虫被害の先端地域では被害が北上している一方で、県全体の被害量は減少しているということは、まん延地域では松林が減少しているということでしょうか。

【事務局】

県全体の被害量に占める先端地域の被害量の割合は小さいため、先端地域において被害発生地点が拡大・北上したとしても、県全体の被害量への影響は少ないものとなります。

また、県南部を中心とした松くい虫被害のまん延地域では、これまで実施してきた被害木の駆除や、予防散布及び樹種転換による防除の取組が浸透した結果、被害量が減少していると考えております。

【橋浦委員】

紫波町で松くい虫被害が前年の 156%と増加した理由は。

【事務局】

紫波町では町西側の赤沢地区を中心として被害が継続的に発生していたところですが。しかし、昨年は紫波町の東側の東北自動車道路沿いの紫波サービスエリア付近で被害木が確認されており、このため町全体の被害量も増加したと報告を受けています。

県では、ネクスコ東日本株式会社に対して、東北自動車道路沿いの被害木の駆除について依頼し、同社では伐倒およびくん蒸による駆除を実施していただいております。

【橋浦委員】

紫波町では駆除できなかった被害木が森林内で倒木となっています。これら被害木を含む松はチップとして需要はあるのでしょうか。

【事務局】

県ではいわて森林づくり県民税を活用したいわて環境の森整備事業により毎年 20～30ha の松林の樹種転換を行っており、伐倒した松はバイオマス発電工場等に運搬し、燃料用チップとして活用されています。

【手塚委員】

大船渡市で松くい虫被害量が前年より増えている原因は、令和 4 年度の駆除量が少ないことによるものなのでしょうか。

【事務局】

大船渡市では、主に釜石市と住田町との境界付近で重点的に駆除を実施する方針としており、今回、大船渡市の被害が増えた原因は、市の中心部を通過する三陸縦貫自動車道沿いでの被害が多く確認されたことによります。

【手塚委員】

大船渡市において、三陸縦貫自動車道沿いでの被害が多く確認された原因は、被害木を運搬する車両が三陸縦貫自動車を通行するためでは。

【事務局】

松くい虫被害が拡大する理由として、マツノマダラカミキリの移動によるものと、被害木の運搬等による移動の2種類に大きく分けられます。

被害木を運搬した車両が三陸縦貫自動車を通行することにより、松くい虫被害が拡大する危険性があるため、県では告示による松くい虫被害木の移動禁止の周知や、健全材であっても被害地から未被害地への移動自粛の依頼などに取り組んでいます。

② 令和6年度特別防除等計画（案）について（資料2により説明）

《主な質疑等の要旨は次のとおり》

【山中松くい虫対策部会長】

ヘリ散布や地上散布を行っている区域でも、松くい虫による被害は発生しているのでしょうか。

【事務局】

薬剤を散布している地域でも被害木は発生することがあります。なお、被害木が確認された場合、市町村では速やかに被害木を駆除しているところです。

また、本年度から地上散布を行っている陸前高田市の高田松原では、現時点で被害は確認されていないと報告を受けております。

③ 令和6年度松くい虫被害対策実施方針（案）について（資料3により説明）

《主な質疑等の要旨は次のとおり》

【山中松くい虫対策部会長】

今回の実施方針と、昨年との実施方針との違いはありますか。

【事務局】

令和6年の実施方針と令和5年の実施方針との違いはありません。

【手塚委員】

市町村では、県の実施方針を反映した防除方針を策定して、防除の取組を進めているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

市町村では主に被害拡大の防止を目的とした防除方針を策定しており、県では、市町村が策定する防除方針において、駆除や防除、樹種転換を重点的に実施するための森林を、高度公益機能森林や被害拡大防止森林に指定することで、市町村の防除の取組を支援しているところです。

④ 松くい虫被害防除監視帯の変更（案）について（資料4により説明）

《質疑等なし》

イ 審議

① 高度公益機能森林等の区域の変更（案）について（資料5により説明）

《主な質疑等の要旨は次のとおり》

【山中松くい虫対策部会長】

岩手町では、今回、知事が高度公益機能森林として指定した森林の周辺で、町長が地区実施計画に基づく地区保全森林等に指定することになるのでしょうか。

【事務局】

現在、岩手町では地区実施計画の策定について検討中です。

【橋浦委員】

市町村長が指定する地区保全森林等は、市町村有林となると思われませんが、私有林で発生した被害木の防除に対応ができないのではないのでしょうか。

【事務局】

市町村長が指定する地区保全森林等の対象森林は、市町村有林や、個人の私有林を含む民有林となっています。また、市町村が私有林で発生した被害木を駆除する際は、所有者から同意をもらったうえで伐倒・駆除を実施しています。

【橋浦委員】

最近は所有者が地元にならぬため、松くい虫被害木が林内に放置されており、駆除がなかなか進んでいないという印象を受けます。

《イ 審議事項について、原案どおり承認》

(2) ナラ枯れ被害対策について

ア 報告

① 岩手県のナラ枯れ被害の現状と対策について（資料6により説明）

《主な質疑等の要旨は次のとおり》

【手塚委員】

シイタケ原木に使うナラは、若いナラ林から伐採した原木を使用しており、太い原木はあまり使われないと思っておりましたが、宮古地域でナラ枯れ被害を受けたシイタケ原木林は何年生くらいだったのでしょうか。

【事務局】

ナラ林の林齢は把握しておりませんが、生産者の中には30 cmくらいの丸太もシイタケ原木として使用すると聞いております。

また、宮古地域は県内有数の生産者がおり、所有林でナラを伐採、更新しながら循環的に利用しているところですが、林内の全てのナラを伐採しているのではなく、その中で残った太いナラが被害を受けて、シイタケ原木としては使いにくいという状況も出てきております。

【手塚委員】

被害を受ける前に伐採して更新することですが、被害を受けたナラ林は更新しないということでしょうか。また、更新したナラ林は、例えば10年後に再びナ

ラ枯れ被害を受けるのでしょうか。

【林業技術センター】

コナラ林でナラ枯れ被害が発生した場合、被害を受けないコナラも一定割合で残存することから、伐採によりナラ林は更新します。一方、ナラ枯れ被害を受けたミズナラは、萌芽することがないため、他の広葉樹が更新します。

また、カシノナガキクイムシの生息密度が高い地域においては、若いミズナラ林の細い立木でもナラ枯れ被害を受けている事例もあります。

【橋浦委員】

被害木を含むナラの伐採及びチップ利用とは、くん蒸処理した被害木をチップ利用しているということでしょうか。

【事務局】

県では、いわて森林づくり県民税を活用して、ナラ枯れ被害地において、被害木を含むナラを伐採し、チップ等に利用することで、ナラ林の若返りを図る取組を促進しています。被害木は、くん蒸処理でなく、健全木と一体的にチップ工場に運搬・破砕することで駆除となります。

【手塚委員】

被害木を伐倒、くん蒸した後は、ビニールシートを被せたまま集積しているようですが、駆除が終わった被害木は、その後はその場に置いたままでしょうか。

【事務局】

伐倒してくん蒸した被害木は、カシノナガキクイムシの産卵対象となる危険性や幼虫の羽化脱出の危険性がないため、駆除事業は終了となります。

駆除した後の材の利用については、所有者さん次第となります。また、ビニールシートは生分解性の素材でできており、数年後には分解してなくなります。

【手塚委員】

みちのく潮風トレイルを歩いていると、くん蒸処理してビニールを被せた被害木が多く見かけられます。一般の方は、ナラ枯れ被害木やくん蒸処理などは知らないため、トレイル関係の建物などに、ナラ枯れと防除に関する説明パネルなどがあればトレイルの利用者さんも理解できると思いました。

- ② 令和6年度ナラ枯れ被害対策実施方針(案)について(資料7により説明)
《質疑等なし》

《議事終了》

岩手県森林審議会松くい虫対策部会委員名簿

氏 名	役 職 名	備 考
山 中 高 史	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所長	部会長
伊 藤 弓 枝	かたぎしゆみえ建築設計事務所 主宰	
手 塚 さや香	岩手移住計画代表	
稲 村 崇 史	岩手県木材青壮年協議会 令和6年度会長	欠席
橋 浦 律 子	NPO法人紫波みらい研究所	

(委員数5名)

事務局等

所 属	職	氏 名	備 考
農林水産部	技監	工藤 亘	
農林水産部森林整備課	総括課長	砂子田 博	
	整備課長	小川 健雄	
	主任主査	中嶋 康	
	主査	高橋 信貴	
林業技術センター研究部	上席専門研究員	小岩 俊行	

岩手県森林審議会松くい虫対策部会

日時：令和6年2月22日（木）10:00～12:00

場所：岩手県庁 12階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 松くい虫被害対策について

ア 報告

① 岩手県の松くい虫被害の現状と対策について …… 【資料1】

② 令和6年度特別防除等計画（案）について …… 【資料2】

③ 令和6年度松くい虫被害対策実施方針（案）について …… 【資料3】

④ 松くい虫被害防除監視帯の変更（案）について …… 【資料4】

イ 審議

高度公益機能森林等の区域の変更（案）について …… 【資料5】

(2) ナラ枯れ被害対策について

ア 報告

① 岩手県のナラ枯れ被害の現状と対策について …… 【資料6】

② 令和6年度ナラ枯れ被害対策実施方針（案）について …… 【資料7】

4 閉 会